

## 令和4年度学校評価の概要

前年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業や家庭学習の充実により確かな学力を身に付けさせ、進路目標の実現を図る。</li> <li>2 安城東高校生としての品格を重んじ、規則正しい生活習慣を身につけさせる。</li> <li>3 学習活動、部活動、学校行事の三位一体となった学校教育活動の充実を図り、魅力ある学校作りを進める。また、地域への情報発信を積極的に行う。</li> <li>4 職員間の新たな協力体制を構築し、在校時間の適正化を図り多忙化解消に努める。</li> </ol>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・職員の防災意識の向上と激甚災害時の対応の確認</li> <li>・コロナ以後のふさわしいPTA活動の取組への改変</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災避難訓練や講話等を通して、生徒や職員の防災意識を高める。</li> <li>・激甚災害時初動マニュアルを感染症対策も含めて見直しをする。</li> <li>・理事会、役員会、各委員会の在り方を検討する。</li> <li>・総会の在り方を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県「防災セミナー」参加生徒の提案で、避難訓練を事前に知らせずに行い、一定の成果を得た。</li> <li>・激甚災害時初動マニュアルについて、市の危機管理課と連携しながら職員に周知した。</li> <li>・理事会、役員会の数を減らすことについて継続して検討する。</li> <li>・総会については現状での第1学年の類型選択説明会の組み合わせが妥当と考える。</li> </ul>
教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程と観点別学習評価への対応</li> <li>・新しい高校入試への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領を踏まえた授業展開と考查問題の作成ができるように支援する。</li> <li>・観点別学習評価がスムーズに行えるように環境を整える。</li> <li>・新入試の情報を職員に分かりやすく正確に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年の教員には新指導要領を踏まえた授業展開と考查問題の作成ができるように支援することができた。</li> <li>・観点別評価の方法やスクールエンジンの利用の仕方について全職員がスムーズに行えるようにはなっていない。</li> <li>・新入試の方式を十分に理解することができた。職員会議などで新入試の内容を伝えたが、まだ十分とは言えない。教務部を中心に入試業務を円滑に行う必要がある</li> </ul>
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学共通テストに向けた校内体制の確立</li> <li>・各学年におけるキャリア教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に情報収集を行い共有するとともに、調査書・ポートフォリオ作成のためのシステムを構築する。</li> <li>・第1、2学年では、進路行事、総合的な探究の時間を通して将来の明確な目標をもてるように支援する。</li> <li>・第3学年では、進路学習や面接を通して進路目標の実現に向けて努力する姿勢を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・web開催が多かったが、各種研究会等へ参加し、新入試の基本事項や受験生の傾向などの情報共有を全職員に図ることができた。</li> <li>・調査書の新様式に対応するため、県のシステム以外に本校独自のツールも作成し活用した。</li> <li>・第1・2学年では進路行事、総合的な探究の時間を通し、将来の職業や、大学・学部・学問内容を考える機会を設け、キャリア意識の向上を図った。</li> <li>・3年生の担任には、大学説明会や進路検討会への参加などを通じて情報の共有を図り、生徒面談に生かすことができた。</li> </ul>
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい生活様式」に対応した学校生活に関するルールなどの見直し</li> <li>・いじめ防止対策の推進と徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会やPTAと連携し、生徒や保護者の意見・考えを取り入れながら、服装や頭髪など学校生活に関するルールなどを見直す。</li> <li>・定期的なアンケートの実施、ホームルーム活動などで、生徒がいじめ問題について主体的に考える機会を設け、未然防止を図る。</li> <li>・職員間での情報共有を積極的に行い、組織的に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会との連携で校則の見直しを進めることができた。</li> <li>・校則に関わる内規の改正を進め、生徒手帳や新入生の手引きなどの改定を行い、ホームページに掲載する準備はできた。</li> <li>・文部科学省や愛知県教育委員会から通知をもとに、いじめに対する学校の取り組みを強化することができた。</li> <li>・学年や保健部との連携をとり、外部カウンセラーの意見を聞く機会も設けた。</li> </ul>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常清掃の徹底</li> <li>・相談活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校体制での清掃活動の充実を図る。そのため清掃道具の整備を適切に行う。</li> <li>・担任会、学年会、学年主任会等を通して、問題を抱える生徒の早期発見と早期対応を図る。</li> <li>・養護教諭、相談係、SCの連携を図るため相互の連絡を密に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5S運動に全校でしっかり取り組み、清掃状況は概ね良好である。2学期から当番制にしたが、トラブルはなかった。</li> <li>・朝の健康観察や保健室利用状況、学年主任からの連絡をもとに、対象生徒に対し学級担任、養護教諭、SC、保護者が連携をとりながらサポートできた。</li> <li>・コロナ禍の中、SCとの面談を希望する生徒、保護者が増加したが、有効に活用できるよう調整した。</li> </ul>
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の充実</li> <li>・部活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な生徒会通信の発行や議会の開催等を通じ、生徒会活動に対する全校生徒の参加意識を高める。</li> <li>・ボランティア活動などの社会貢献活動を積極的に推進する。</li> <li>・安全な環境のもと、時間を有効活用し、効率の良い活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会通信の定期的発行や執行部の積極的な発案により生徒会活動への参加意識が高まった。</li> <li>・アンケートの実施や目安箱の設置により生徒の意見を積極的に取り入れた。</li> <li>・クリーンフェスティバルは多数の生徒が参加し、積極的に取り組むことができた。また、赤い羽根共同募金、ベルマーク活動を推進できた。</li> <li>・段階的に設備・器具等の整備を進めている。限られた時間の中で、生徒は前向きに部活動に取り組んでいる。</li> </ul>
ユネスコ・国際教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解教育の充実</li> <li>・ユネスコスクールとしての活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹校とのオンライン交流やサマーセミナーを通して、生徒の国際理解を促す。</li> <li>・PTAとも連携し、ボランティア活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ZOOMのチャット機能を使い、7月と10月に日豪の文化を紹介し合い、交流を深めることができた。サマーセミナーでは、7カ国からALTを招き、文化を幅広く学ぶことができた。</li> <li>・PTAに姉妹校オンラインセミナーに参加していただいた。ボランティアに関しては主にユネスコクラブとESSがボランティア活動に積極的に参加した。</li> </ul>
図書情報部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書の適切な管理</li> <li>・校内ICT機器のとりまとめと学校の情報の一元化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な蔵書管理と図書館を利用したくなるような館内整備を行う。</li> <li>・ICT機器が効果的に活用できるように管理し、校内支援システムを用いて情報を一元管理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期ごとに確認作業をし、適切な蔵書管理ができた。貸し出し、返却等の管理も確실행した。</li> <li>・ICT機器およびIDの管理を一元化し、適切に管理することができた。</li> </ul>
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安城東高生としての生活の基礎・基本の確立</li> <li>・適切な類型選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣及び学習習慣を確立させる。そのため担任面談等を通じて生徒の状況把握を確実に行う。</li> <li>・類型選択に関する保護者・生徒向けの説明会等を実施し、科目選択に資する進路情報を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声掛け指導等の甲斐あって、始業時間に遅刻する生徒は少ない。一方で、家庭学習の平均時間は2時間に達していない。調査後に振り返りの機会を設定し、行動の変容を促した。</li> <li>・類型選択に関する情報を生徒に示す機会が少なかった。集会や学年通信を発行して、生徒への周知の機会を設けていきたい。</li> </ul>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の諸活動の中心であるという自覚</li> <li>進路目標の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や学校行事に積極的に取り組ませる。</li> <li>主体的に学習に取り組めるよう工夫を凝らす。</li> <li>出前講義や大学研究等を通して進路について理解を深めることで、進路目標を明確化させ、学習意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や学校行事に意欲的に取り組む生徒が多い。修学旅行においては、主体的に班別研修の計画をし、研修が有意義なものになるよう努めることができた。</li> <li>学習に対する意欲は徐々に高まっている。学習課題の出来を振り返り、出来なかった問題をしっかり解き直そうという意識が多くの子に見られるようになった。</li> <li>具体的な志望校はあるが、入学後に何を学び、将来どのような能力を生かして社会を生きていくかという、大学の先のビジョンまで考えている生徒は少ない。自分の理想像に近づくにはどんな環境に身を置けばよいのか、という視点で、志望校選択を考えさせたい。</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>最高学年の自覚をもたせるとともに社会人としての資質の育成</li> <li>進路目標の達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己、他者理解を深めるとともに、人を思いやる心を育成する。</li> <li>5分前登校を徹底し、遅刻を減少させる。</li> <li>進路学習や面接指導などを通して進路目標を明確にさせ、学習意欲を高める。また学習計画表などを活用し、計画的、持続的な学習を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏から秋にかけて担任との面談を複数回行い、生徒の状況を把握することができた。</li> <li>受験が近づき体調面や精神面で不調を訴える生徒が増え、遅刻数は次第に増加した。個々の生徒に丁寧なケアが必要だった。</li> <li>継続的に面談を行うことで高い進路意識を持たせることができ、学習時間を伸ばすことができた。総合的な探究の時間に志望理由書を記入することにより進路希望を明確にし、進路実現のために学習意欲を向上させることができた。</li> </ul>
総合評価	<p>学習活動、部活動、学校行事など学校教育活動を充実させることで、魅力ある学校づくりに取り組むことができ、概ね目指す成果を上げることができた。コロナ禍の中でも日常の活動ができるようにICT機器を効果的に活用し、PTAと協力して国際交流活動や地域への情報発信に積極的に取り組んだ。在校時間の適正化についても改善を図り、一定の成果を上げることができた。</p>		